



〒108-0071

港区白金台 3-7-1
(3443)
5666



<http://shirokanedai-kg.minato-kyo.ed.jp/>



清々しく整える

園長 新井 智子

正門横のプランターには、夏の花が彩り鮮やかに咲いています。屋上や園庭で育てているジャガイモやトマトは、収穫して試食したりお家へのお土産にしたりしました。自分たちで世話をした野菜の味は格別で、この機会に苦手だった野菜が食べられるようになった子が何人もいます。小さなトマトが一つ入ったビニール袋を大切に持って帰る姿はとても微笑ましいものです。

さて、戸外遊びが心地よい季節、3歳児は園庭で素足になったりビーチサンダルを履いたりして、砂や水の感触を存分に楽しむ遊びをしています。ふと見ると、ごごの縁に脱いだ靴下が入った上履きがきれいに一列に並んでいます。脱いだ自分の靴を、遊びの後自分たちで履きやすいように揃えることは、折に触れて担任が丁寧に指導しています。4・5歳児になると、遊びの中でも自然に脱いだ靴を揃えて端に並べたり、履きやすいように向きを変えたりする姿が見られるようになってきます。園だけではなく、家庭での習慣として身に付いていることかもしれません。

毎日の生活の中で、落ちていたものを拾って片付ける、製作で使った素材を形ごとに分類する、ものを投げずに渡したり置いたりするなどのマナーや所作は、みんなで気持ちよく生活を送るうえでとても重要で、ものを大切に、人を思いやる気持ちにもつながっていきます。

ところで、昔々私が小学校一年生の時、その当時給食でゆでたまごがよくできました。もちろん殻つきのままです。担任の先生は、一年生を前に『ゆでたまごの割り方』を、モデルを示して教えてくださいました。たまごの中央あたりをコンコンと一周細かくひびを入れ、帯状に殻をとっていきます。そして、左右に分かれたボウルの形をした殻をスポッととり、2つを重ね、それを入れ物にして砕いた小さな殻を入れたのです。一連の所作の美しさに私は見とれてしまいました。以降、ゆでたまごの殻を剥くたび先生の教えを思い出しています。

靴の置き方にしろ、ゆでたまごにしろ、清々しく場やものを整えたり始末したりすることは、ものへの感謝と次にすることへの心の構えになります。そして、整えられた場やものに触れたとき、清々しさとともに心が満たされる気がします。

< 7月の指導のねらい >

3歳児

- いろいろな水遊びを通して、水の心地よさや楽しさを感じ、水に親しむ。
- 着替えや所持品の始末など、園生活に必要なことを自分でしようとする。

4歳児

- いろいろな水遊びを通して水に親しみ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- 自分の思いやイメージを言葉や動きで表現し、相手の思いを知って自分なりに受け止めようとする。

5歳児

- 自分の思いや考えを伝え、友達の思いや考えを受け入れながら、友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。
- 共通のめあてに向かって学級の友達と一緒に取り組み、みんなでできた喜びや満足感を感じる。
- 水遊びを楽しみながら、自分なりのめあてに向かって繰り返し取り組み、挑戦したり工夫したりする。



